

平成 30 年度 病虫害発生予察 特殊報 第 2 号

病虫害名： トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* Emery

対 象： キャベツ

1. 病虫害情報の内容

トビイロシワアリの発生と被害を、東京都多摩地域のキャベツにおいて確認した。

2. 発生経過

- (1) 平成 30 年 9 月に東京都多摩地域において、定植したキャベツ苗が萎凋、枯死する被害が発生した(図 1)。被害株の地際部にアリの寄生、食害及び営巣を確認した(図 2、3)。

採取したアリの同定を横浜植物防疫所に依頼した結果、トビイロシワアリ(*Tetramorium tsushimae*)と確認された。

- (2) 本種は屋久島以北の日本各地に分布し、西南日本では最も普通に見られる種のひとつである。農作物の被害は、平成 10 年の福岡県を始めとし、千葉県、広島県、香川県、佐賀県、長崎県、山口県、滋賀県、群馬県、茨城県、静岡県、埼玉県、長野県及び新潟県の 14 県から報告があり、キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、バレイショ、ナス、カンキツ及びアスター等で被害が確認されている。

3. 形態

働きアリの体長は約 2.5 mm、体色は褐色から黒褐色で、頭部及び胸部の表面は縦じわに覆われる(図 4)。

4. 生態

本種は雑食性で、昆虫などの死体、雑草の子実や発芽直後の芽、植物の甘露、樹液などを食べる。

比較的乾燥した場所を好み、日当たりの良い裸地や草地等で、草の根元、石の下や腐朽木中に巣を作る。巣の規模は大きく、1つの巣に多数の女王アリを有する。

5. 被害

株元に土を盛ったり、地際の茎や根の表皮を加害してくぼんだ加害痕を形成し、株全体を弱らせる。被害の激しい株は枯死する場合もある。

6. 防除対策

本種に対する登録薬剤はないため、深耕やかん水による巣の破壊等の物理的・耕種的な防除に努める(平成 30 年 11 月 6 日現在)。

7. 参考文献

特殊報及び技術情報：福岡県(平成 10 年)、千葉県(平成 19 年)、広島県(平成 21 年)、香川県(平成 22 年)、佐賀県(平成 22 年)、長崎県(平成 22 年)、滋賀県(平成 23 年)、山口県(平成 23 年)、群馬県(平成 26 年)、茨城県(平成 28 年)、静岡県(平成 29 年)、埼玉県(平成 30 年)、長野県(平成 30 年)及び新潟県(平成 30 年)



図 1 被害ほ場の様子 (キャベツ)



図 2 被害株の地際部 (赤キャベツ)



図 3 集団での加害の様子 (赤キャベツ)



図 4 トビイロシワアリ成虫 (働きアリ)